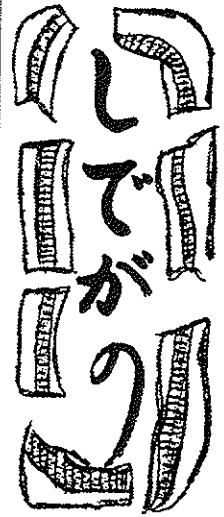


11月22日 なわとび集会 めざせ！ 大名人。



しでがの通信

第 99 号

羽津小 P・T・A

編集発行

発行所 羽津小学校

として保存して下さい

目次	
わんぱくタイム	1
両親学級開かれる	2
しでがのタイトル図案決まる	3
海外視察雑感	4
民謡シリーズ(九) 創作民謡 大入道	5
あなたにスポット	6
学年行事紹介	7
わが家のお正月	8

わんぱくタイム

担当教諭 安藤 桂代子

「ジャンケンポン、あいこでしょ」
 「勝った、勝った、早く走って」
 「負けた、次、早く行って」
 元気のいい子ども達の声が、運動場いっぱい、広がりました。わんぱくタイムの始まりです。一回目と二回目は、陣取りゲームです。肌にしむ冷たい風も、子ども達って、平気なんですね。もう、みんな、目の前の勝負に、夢中。

十一月から、みどりの広場で、縦割り活動として、全校町別集団遊び集会を計画しました。名付けて「わんぱくタイム」。二十人前後で編成された、町別のグループで、六年生のリーダーや、五年生の副リーダーが、中心となって、一時間、思いっきり遊ぼうという時間です。

大きい子も小さい子も、一緒にワイワイやるのですから、ふだん同学年の子と遊ぶのとは、また違った楽しさがあるのではないでしょう。学年を越えた仲間と遊びを通して、ふれあいながら、上下のつながりを深めようというのがねらいです。高学年は、みんなをうまくリードし、全員が楽しめるような雰囲気をつくらねばなりません。遊びも、いつもやっているなわとびや、ドッジボールなどではなく、私達が、幼い頃によくした、缶けりや、ひょうたん鬼のような、素材で、みんなが楽しめる集団遊びをします。現代っ子が、したことのない遊びも経験でき、遊びの範囲も広がることでしよう。

三学期からは、リーダーが、遊びを考えます。どんな遊びをはじめることやら、楽しみます。

両親学級開かれる

☆☆☆☆ 両親学級開催によせて 部長 飯田 敦子 ☆☆☆☆

十一月十七日(日)の両親学級には、皆様の大切な休日にもかかわらず、多数のご父兄にご出席いただきありがとうございました。

授業参観のあと、講演会が行われ、又同時に、体育館には、児童の優秀作品の展示や、PTA広報部の写真展、又母親部の作品展、学年学級部の展示等、四月から、今日までの作品や仕事の一部を見ていただきましたが、如何でしたでしょうか？

講演の方は、教育評論家の中島勝正先生に、『家庭における両親の役割』という演題で、お話しいただきましたが、先生は、NHKの『お母さんの勉強室』に出演された時の事を思い出して、その時参加なさって一見どこにでもありそうな一族を例にとり、その家庭の素晴らしさと、悪い例を御自分の家庭に對比させ、先生独自のユーモアと、身振り手振りの面白さも手伝って聞いている方は、おなかをよじって笑い転げ、二時間半の長いお話も、退屈する事もなく過ぎてしまいました。

ただ、その中で先生は、家庭の中において主人は、家族の生活をしつかりと守り、妻や子供の応援者、讃美者として広い大きな心を持ち、又衣食住のほとんど全てにかかわって暮らす主婦は情緒豊かに常に家族に対し細やかな心づかいが必要で、そういう気脈の通じた夫婦円満な家庭の中に、はじめての子供はほっと安堵し、心の安らぎを覚えるのであって、この様な家庭の中に育った子供に、いじめなど生まれてこない。両親にとってかけがえのない子供に、いきがい、やりがい、生まれがいを保持させて欲しい。一人一人の子の特性をつかんで、その子に目標を与えて大切に育てて欲しい。家庭教育とは、毎日の生活の中で思いやりの心、謝念の心、尊敬の心を自然に育ててゆく場であり、逆に家庭の乱れが、子供を悪くもするものであるといったお話しでした。

授業参観と講演会

ざっかん

毎年の行事である両親学級では、授業参観、講演会、ともに沢山のご父兄が出席されました。その中から数名の方に雑感をお聞きしました。

さすが両親学級、夫婦揃って出席された姿が目立ちいいムード。

子供の授業態度を見て良いところは自分に、欠点はその主人に似てるなあと納得？

長時間にわたる講演会寒さの中で頭の体操。お父さんご苦労さん！

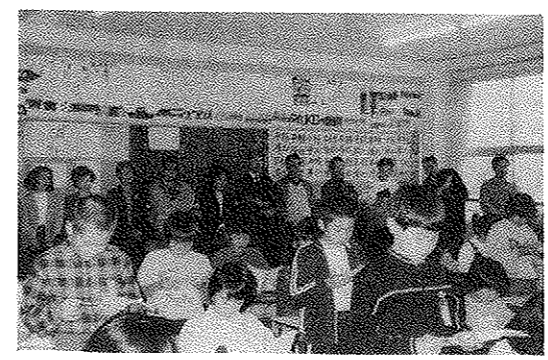
中島先生の講演会、一時間あまりの延長にもかかわらず、ユーモアあふれるお話は最後まで楽しく聞かせてもらった。

「○○ちゃん、今日の国語のテスト何点？」「それでクラスで何番？」「○○くんはどうだった？」など現実によくある話を用いられ、ユーモアたっぷりの名古屋弁が印象的だった。

ひとりひとりの子供を、家庭の和夫婦の和でもって大切に育てていきたい。

よそのお父さん方の熱心さに感心。我が家の主人の無関心さに腹が立ちました。

授業参観のとき、ぼそぼそ聞える父兄の話し声が気になった。



「しでがの」 タイトル図案決まる

かねてより募集しておりました「しでがの」タイトル図案が、十二月の役員会におきまして、十分に検討された上、決定致しましたので、お知らせ致します。

皆さまからお寄せ頂きました二十六点のすばらしいアイディアの中から緑ヶ丘町の前田茂也さんの作品を採用させて頂くことになりました。又、前田さんの原作に、

専門的な立場からご協力を頂こうと、さくら組担当の黒田先生に補作を、「しでがの」の文字は池田昭教頭先生にお願いして、とてもすばらしい図案ができました。

作品をお寄せ下さいました皆様その他、ご協力頂きました皆さまに、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

(実物大)



しでがの (志氏野) に自生する、イヌナシ、の木

小さな実を子供たちにぞらえて、一つ一つの実が立派に実るよう祈りをこめて希望し、実現するよう努力しようという思いを託して描きました。

(緑ヶ丘町・前田茂也氏
補作・教諭 黒田義彦氏)

みどりの学校

自然の中で



5.6年生

10/22 ~ 10/25

海外視察雑感 バララング小学校を訪ねて

5の1担任 坂野 修一

去る九月六日から十月十三日まで文部省教員海外派遣団の一員として、オーストラリア・シンガポール・マレーシア・タイの四方国を視察してきました。まさか自分が今年この海外派遣団に加わるとは夢にも思っていませんでしたので、先生方にも、五年一組の子供達にもぜひぶん迷惑をかけてしまいました。ここにそのお礼かたがたオーストラリアのバララング小学校の訪問記を記し、感謝の意を表わしたいと思います。

「小学校はやっぱいいいな。」が第一印象であった。それまでにウ

ラング市内のハイ・スクールを二校訪問して、薄化粧した女生徒や大きな男子生徒などに圧倒されていた私にとって、バララング小学校が何と新鮮で素朴に映ったことか。



バララング小学校は市の中心から車で30分、中間層の人々が多く住む郊外にある。児童数30人、14学級の小じんまりとした学校である。バララングとは、原住民の言葉で、「木のある所」という意味だそう。オーストラリア全体がそうだが、何と緑の多いことか。日本と同様、能力別ではない学級編成だが、オーストラリアは30人学級制のため、実際には20人前後の学級が多い。

校長先生の説明によると、バララング小学校では、演劇・手芸・美術等に力を入れているとのこと。

最近日本でも叫ばれてきた「ゆとりの時間」の考え方が、この学校の教育方針になっているわけである。インファントとよばれる低学年は、じゆうたんの上にちよこんと座り、イスに腰かけた先生の話を

おきようきよく聞いている。教室中が作品でいっぱいである。壁面だけでなく空間にまで。何と楽しいような教室だ。まるでおとぎの国の部屋にでもいるようである。これでは学校さらいもあるまい。さ

ろうが、むだ話をする子やよそ事をする子は見当たらない。目が輝いている。日本で問題になっている「いじめ」は、話題にもならないという話もうなづける。学校教育の中で必要な事は学校で、家庭・校外の問題はすべて親の指導というはつきりとした考え方も見習いたいものだ。ただ、私の見学テーマであった体育施設・遊具・体育の学習については、いさか期待はずれであった。小さな体育館、芝でおおわれただけの運動場、おそまつな遊具。しかし、考えてみれば、いたる所に広い公園があり、緑があり、広い庭のある家に住むオーストラリア人にしてみれば、それら全てが体育施設なのかもしれない。場所がない、道具がない、時間がない、仲間がない、せめて学校体育だけは充実させたいと願う日本とは、比較の対象にはならないのかもしれない。

三十分までの日課を終え、私たちとの写真撮影に喜々として加わり、スクールバスに乗り遅れまいとかけ出して行く子どもたち。校門で私たちのバスに手を振って送ってくれた子どもたち。すばらしい学校訪問であった。

民話シリーズ (九)

— 創作民話 — 大 入 道

教頭 池 田 昭



もある若い男がたずねて来て、「ごめんなして。わしをこの店で使ってくれやんかなあ。」

と、たのむのです。主人の久六は「わたしとは、こんな小さい店やし、若い者を使うたことがないんでなあ。」

と、ことわるのですが、その男は「わしは、いなか者やでな。給金もらえるような仕事はできやんとと思うのや。そやけど、いっしょうけんめい働んで使ってくれなれ。」

と、腰を低くして何度も頼むので、久六はとうとう根負けして、その男を使うことにしました。

それから三日たち、十日たちすると、ふしぎなことに久六の店に反物を買に来る客が増え始めたのです。大男の商いぶりは評判がいいし、反物の売り上げもぐんぐん増えてきたのです。

三年もたつと、久六の店は町でも指おりの大きな店になっていました。そして、大男は、あかぬけ

して見るからにたくましい若者になっていました。

ある日のこと、久六は奥の座敷に大男をよんで、「お前が店に来てから早いものでもう三年が過ぎたんやなあ。お前のおかげで店は繁盛したし、お客さんも遠くから来てくれるようになった。」

ところで、わしら夫婦と娘からの頼みやが、うちの婿になってこの店を継いでくれないかね。」と尋ねたのでした。ところが、「とんでもないことです。この店で働かせてほしいとお願したのはこの私です。それに、私はお嬢さんの婿になれるような男ではございません。どうか、今までのように働かせて下さい。」と、涙さえ流してことわるのでした。

そんなことがあった次の年の夏のことで。むし暑くて寝苦しい夜ふけでした。主人の久六は、あまり暑いので中庭に出て涼もうかと縁側づたいに大男の部屋の前を通りかかりました。

そして、なんとなしに目を大男の部屋に向けると、得体の知れない大きな影が障子に写っているではありませんか。それは、首が胴から長くのびて

頭がゆらゆら大きく動いているのです。そして、首の長くのびた頭が行灯の方に動いて油をなめているのです。

その頭は、たしかに大男のものでした。久六は、あまりのことに気を失ってそこに倒れてしまいました。

次の朝、久六がこわごわ大男の部屋に行ってみたのですが、だれもいませんでした。部屋のすみには大男が着ていた縞の着物が、きちんとたたんで置いてあるだけでした。

それから三日過ぎ、また三日過ぎましたが、大男は帰ってきませんでした。

大男がどこへ行ってしまったのか、町のだれに聞いても知りませんでした。

今でも四日市祭に、縞の着物を着て、首をのびたりちぢめたりして練り歩く「ろくろ首の大入道」があるでしょう。

あれは、どこへ行ってしまったのかかわらない働きの者の大男の無事を祈って作られたのが始まりだということです。

むかしむかし、四の市(毎月四のつく日に市が開かれたので、このようにいう)が、だんだん大きくなって商いをする人たちが家を建て、そこに住みついて町らしくなった頃の四日市の話です。

反物の商いをして久六の店に、身のたけ六尺(約一八〇cm)



グリーンスクールの説明会と併せて、映画、コーラスなどを楽しましました。

十月十一日

六年生

十一月八日、四年生の学年行事を最後にすべての学年が行事を終了しました。どの学年も、それぞれ趣向をこらした催し物で、ご父兄の出席率も、ほぼ百パーセントでした。ご父兄と子供たち、そして先生方、十分にふれ合っていたと思います。皆様のご協力ありがとうございました。

学年行事紹介

三年生

十一月五日(火)

内容 天才クイズ 知りあいの仲

☆参加された

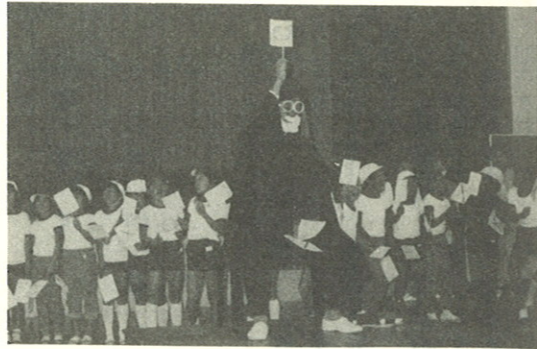
みなさんの声

▲ゲームもバラエティにとんでいてとても楽しかった。

▲司会の方がとてもお上手で、だからする事なくスムーズに行事が運びよかった。

▲時間が予定通り早く終わって欲しいと思った。

▲天才クイズでもうまく配慮してもらい、恥をかかなくてよかった。



四年生

十一月八日(金)

内容 ゲーム バンツでデート 四日市音頭・コーラス

☆参加された

みなさんの声

▲聖火を使ったアイデアはムードがあつてよかったです。



▲競技の時は胸がドキドキ、日頃の運動不足で子供に負けそう！
▲四日市音頭、来年も踊りたい。
▲親子のふれあいを深める良い機会になりました。
四年生の行事は聖火入場、選手宣誓で始まりました。みなさんお疲れさまでした。

PTA研修旅行【奈良】

- 研修先 (1) 呉竹精昇堂 (2) 国立奈良博物館



総勢四十八人を乗せたバスは、一路奈良に向けて走った。雨模様の中、呉竹精昇堂を尋ね墨作りの見学をしました。一つの墨を作るのに最低2、3カ月かかり、それも寒い季節だ

けと聞き、家へ帰り改めて墨を見直しました。奈良で85パーセント、三重県の白子で残りを生産しているのだそうです。寒気と湿度のあう所が全国でこの二カ所だという事です。昔のままという感じの小さな部屋でまっ黒になって手練りで墨作りをしている職人さんを見て、とても感動しました。手間をかけて作られる墨を通して、物を大切にすることを伝えたい。

福祉保健部

あなたにスポット 専門部だより

母親部

十二月六日、羽津地区市民センターにて料理教室を開きました。胸をわくわくさせてのクリスマス料理でした。とてもきれいで、ボリュームがあつて、おいしくて。ぜひ、わが家のささやかなパーティーのメニューにしようかと決めて帰りました。子どもたち、楽しみにまわってネ。(きつと、つくるから。)

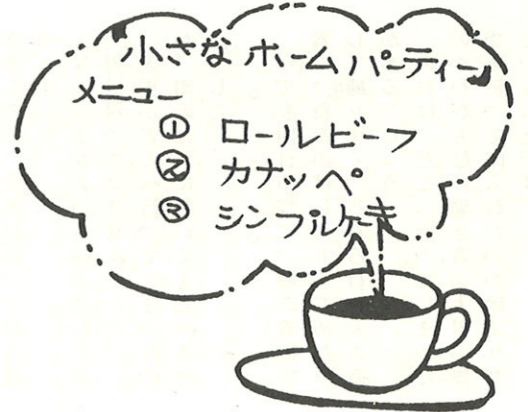
賞

賞 井上キヨ子さんに感謝状

去る十一月二十七日、文化会館にて開催の四日市市PTA大会の席上においてPTA活動に貢献された本校のPTA会長広瀬達士氏と副会長の井上キヨ子さんのお二人に、四日市市長、四日市教育委員会より感謝状が贈られました。

安全部

十二月七日、自転車の点検カードを配布いたしました。冬休みを目前にして子供達は自転車に乗る機会も多いと思います。保護者の方と子供と一緒に点検をし、事故の起きないように気を付けて下さい。



わが家の

お正月

初日の出を見ませんか

いよいよ楽しい冬休みが始まります。子供たちは、クリスマスとお正月を迎えるこの冬休みに夢をいっぱいふくらませていることでしょう。

新年を迎えるにあたって、来年は子供といっしょに早起きをして、初日の出を見てみませんか。日頃見慣れているおひさまも、かすみのふ頭、垂坂山からみると、思いもかけないすばらしい初日の出が拝めますよ。

変わり雑煮の作り方

材 料

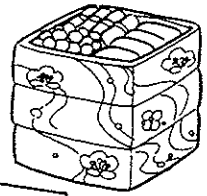
4～5人前

- とりがら…………… 半羽
- 皮付とり肉……… 200g
(もも、むねどちらでもよい)
- 卵…………… 2～3個
- 餅…………… 食べる量
- もみのり、しょうゆ 適宜

作 り 方

- ① とりがらでだしを取る。アクを取り、フタをせず 水の量が $\frac{2}{3}$ 程度になるまでコトコト煮る。火を消したら がらを出す。
- ② とり肉を 1口に切り ヒタヒタより少し多めのしょうゆで つゆのなくなる直前まで煮る。
- ③ スープの中に 好みの味をつけ 餅を入れ柔らかくなつたら、おわんに餅を出しとき卵を スープに流し入れ、取り出した餅に つゆと共に ②も入れもみのりを散らして できあがり。

※ スープは時間がかかるので、暇な時に作っておくと便利です。



寒さも日増しに厳しくなってきました。二学期後半、子供たちは耐寒マラソン、なわとび集会など冬のスポーツで体力作りに頑張りました。

又、広報部の方も「しでがの」百号を記念して、すばらしいタイトル図案ができあがり、みなさまに期待され、親しまれる広報紙にしたいと気分新たに部員一同、頑

	で
さ	す
い	く
ど	



張っておりますのでよろしくお願ひします。

本紙の発行にあたり原稿をお寄せ下さいました皆様にお礼申し上げます。

今年も余すところ数日、おすこやかに良いお年をお迎え下さい。

(広報部)

1986

1月～3月の主な行事

- | | | |
|----|--------|---------|
| 1月 | 9日 | 新年試筆 |
| | 9～11日 | 新年試筆展 |
| | | ※ かるた大会 |
| 2月 | 12～13日 | スポーツテスト |
| | 20日 | 授業参観 |
| | | 懇談会 |
| | 21日 | マラソン大会 |
| 3月 | 15日 | 卒業生を送る会 |
| | 20日 | 卒業証書授与式 |

(Handwritten signatures)